

日本感染症学会 ワクチン委員会委員長がズバリ



にしんじゅんいちろう＝鹿児島大学卒、医学博士。専門は臨床微生物学、感染症学、感染制御学。鹿児島大学大学院医学総合研究科微生物学分野教授、鹿児島大学病院感染制御部部長。日本感染症学会理事・ワクチン委員会委員長

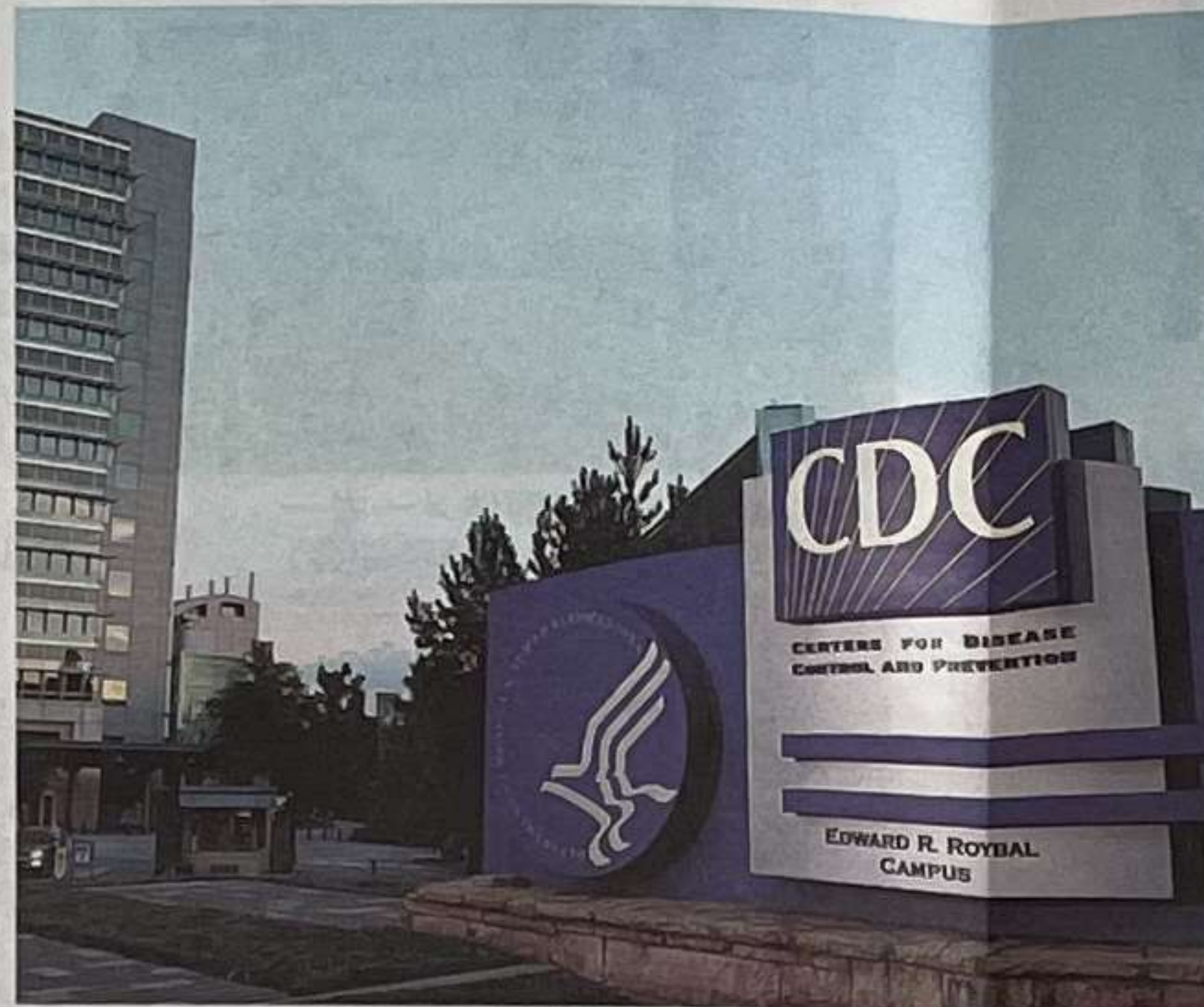
西順一郎さん 鹿児島大学医学部教授

Q 日本の有書事象の報告制度は日本のままでいいのでしょうか。
A 私はアメリカで行われているような有書事象の報告制度を日本も導入すべきだと考えています。日本の場合、一定の有書事象が発生したときに、医師が厚生労働省に

報告する「副反応疑い報告制度」があります。しかし、これだけでは有書事象の評価には不十分です。アメリカでは、ワクチン接種を受けた人が、誰でもこういう症状が出たというのをインターネットで報告できるVAERSというシステムがあります。同じような報告が多数出てくると「これはおかしい」と、早期に

健康被害の報告制度 どうなっているの？

問題を察知できます。アメリカにはもう一つ、VSDと呼ばれる予防接種データのシステムがあります。これは九つの地区で医療機関を指定して、その地域でどれだけの人がワクチン接種を受け、副反応がどれだけの人に出ているかを報告させる制度です。何回の接種に対し、何回の有書事象が出ているのか



有書事象の情報収集システムVAERSを米食品医薬品局（FDA）とともに所管し、九つの医療機関と共同してVSDにとりくむ米疾病対策センター（CDC）の本部＝米ジョージア州アトランタ（ロイター）



大規模接種会場でワクチン接種を受ける男性＝6月25日、東京都新宿区の東京都庁（ロイター）



ワクチンを準備する医療スタッフ＝東京都内（ロイター）

Q ワクチンを接種しないことで受ける差別の問題をどう考えますか。
A 1回目の接種でアナフィラキシーを起こした人は2回目の接種を受けられませんが、アレルギーを心配して打たないという人もいます。

Q ワクチン接種を打てない、打たない人への差別が心配

す。基礎疾患のある人の中にも状態が悪くて接種できない人がいます。そういう人には周りの人たちの配慮が大事です。周囲の人たちがワクチン接種を受け、ワクチンを受けていない人、打たない人を感染から守ってあげるといふ意識を持ってほしいです。

打てない、打たない人への差別が心配

Q ワクチン接種を打てない、打たない人への差別が心配

す。基礎疾患のある人の中にも状態が悪くて接種できない人がいます。そういう人には周りの人たちの配慮が大事です。周囲の人たちがワクチン接種を受け、ワクチンを受けていない人、打たない人を感染から守ってあげるといふ意識を持ってほしいです。

感染防止できる？

Q ワクチンの接種を受ければ感染しなくなるのでしょうか。
A 臨床試験でファイザーのワクチンは有効率95%と示されています。モデルナは94%です。有効率の基準は発症するかどうかです。感染しても症状が出ない人がいるので、感染そのものを減らすかどうかは臨床試験では分かっていません。その後、各国で接種が進む中で、定期的PCR検査をして無症状感染者を把握する研究の報告がいくつかあります。それによくとファイザーのワクチンもモデルナのワクチンも、感染そのものを80%削減していることが報告されています。

効果あるが感染対策継続を

海外の研究で、ワクチン接種を受けた6割以上の人の粘膜、唾液中にIgA抗体ができていて、鼻や喉の粘膜からの感染はあまり防げることができません。そのため、鼻や喉の粘膜から感染するインフルエンザは、ワクチンを打っても感染することがあります。これに対しmRNAワクチンは口の中、唾液の中にIgAという抗体をつくることができます。ウイルスの侵入をブロックする抗体で、「粘膜免疫」と呼ばれます。

変異株にも有効？

Q ファイザーやモデルナのワクチンは変異株にも有効でしょうか。
A 免疫を逃れるように変異したウイルスが増えてくるとワクチンの有効性は低下します。ワクチンの有効性は、どんな変異株がどの程度まん延しているかによって変わってきます。いま流行が心配されている「デルタ株」はインドで発見された変異株の一つです。これは感染力が強いことが分かっています。また、デルタ株は免疫を回避

する力も少しあり、ワクチンの有効性がある程度低下する可能性があります。ただ、ワクチンが全く効かなくなることはありません。ワクチンを2回打っても終わりにならない可能性があります。新たな変異株が出てきているので、3回目の接種も必要です。メーカーでは臨床試験を始めており、ファイザーは半年後に3回目の接種をした場合、どのくらいの効果があるのかを調べており、近く米国FDAに申請予定で

ワクチン接種Q&A

最新版

日本感染症学会のワクチン委員会が、新型コロナワクチンの注意すべきポイントなどをまとめた提言（第3版）を発表しました（6月16日）。同委員会の西順一郎委員長（鹿児島大学医学部教授）に、ワクチン接種をめぐるさまざまな疑問について聞きました。宇野龍彦記者

精子減や不妊に？

Q ワクチンが人の遺伝子に影響を与えていると、さまざまな誤情報が流れています。
A 日本で接種されているファイザー社とモデルナ社のワクチンが、人の遺伝子に影響を与えることはありません。人の遺伝子はDNA（デオキシリボ核酸）でできています。両社のワクチンはmRNA（メッセンジャーRNA）リボ核酸でできています。これが人のDNAに組み込まれることは理論的にありえません。何より、mRNAは人の体に入ればすぐに分

動物実験など科学的に調査 世界のどこでも報告例なし

解される不安定なもので「ワクチンで妊娠できない」という話も飛び交っているようです。しかし、このワクチンは動物実験で胎児への影響や出産への影響を綿密に調査し、妊娠率が下がったり、胎児の奇形が起きたりするといった確認はされていません。「ワクチン接種で精子の数が減る」という情報が広がっていることにも驚かしました。それを調べた研究がすでにあること、精子の数が減ったりしないことが分かっています。出産にかかわる異常は世界でも報告されていません。限った情報に影響を受けている人に、「その情報はデマです」と言うだけでは納得してもらえません。限った情報は科学的事実で批判することが大事です。

副反応が心配

Q ワクチン接種後の痛みや発熱が心配です。

A ワクチン接種した後の一定の期間内に起こる健康上の問題は、ワクチンと関係があるかないかにかかわらず、すべて「有書事象」として報告されます。その中で、ワクチン接種を受けていない人たちの統計的な比較で、ワクチンによる可能性が高いと判断される「有書事象」を「副反応」と呼びます。新型コロナのワクチン接種

痛み、熱は免疫獲得の証拠

後の痛みや発熱などは、副反応だと考えられます。副反応がまったくないワクチンはありません。ワクチン接種は、免疫をつけるために体の中に異物を入れます。そのために、必ず自然免疫のはたらきで痛みや熱が出ます。逆に言えば、痛みや熱が体で免疫をつけている証拠でもあります。しかし、ワクチンは「ゼロリスク」ではありません。痛みや発熱などの一過性の作用だけでなく、ごくまれに重い副反応が出ることもあります。ファイザーとモデルナのワクチンでは、若い男性を中心に心筋炎・心膜炎の症例が報告されています。米食品医薬品局（FDA）によると、およそ10万接種に1人の割合で発生しています。これは高い割合とは言えませんが、若い世代で通常発生する心筋炎・心膜炎の頻度を上回っています。ほとんどの患者は完全に回復していると報告されています。日本でも心筋炎などの報告が増加することが懸念されています。十分な注意が必要です。ワクチン接種によって、全身性の発疹や呼吸困難などのアレルギー反応（アナフィラキシー）が引き起こされることもあります。両ワクチンのアナフィラキシーの発生頻度は、ほかのワクチンよりも高くなっています。発症は接種後15分以内が約8割で、アドレナリンの筋肉注射などですぐに対応すれば、ほとんどが回復します。アナフィラキシーの原因物質は、壊れやすいmRNAを包む脂質に含まれたポリエチレングリコールだと考えられます。化粧品や薬などに広く使われていますので、それらに強い過敏症を起こしたことがある人は、接種に際して医師と相談してください。

予期せぬ健康被害はない

現時点では報告はない

Q 予期しない健康被害が起きることはないのでしょうか。
A 私たちは今回、ワクチンによる予期しない健康被害を一番心配しています。検査では、いまのところワクチンの問題で起きているのはなさそうだとこのようになってきました。病気を治療するための薬と違って、ワクチンは健康な人に接種するものなので、非常に高い安全性が求められます。ワクチンの開

発後にも長期的な有書事象の観察が必要です。新型コロナのワクチン接種は、世界でも昨年12月から始めたばかりです。将来にわたって絶対に安全だといふことは誰にも言えませんが、予期しない健康被害が起きるかもしれないと謙虚に考え、その対応を考えておかないといけません。だからといって、いま接種しないほうがいいというのではありません。新型コロナでは多数の重症者や死者が出ています。アナフィラキシーなどの危険が高い人を除けば接種する利益のほうがはるかに大きいと思います。

人たちが新型コロナのワクチン接種を受けてきました。接種後には、いまのところワクチンの問題で起きているのはなさそうだとこのようになってきました。病気を治療するための薬と違って、ワクチンは健康な人に接種するものなので、非常に高い安全性が求められます。ワクチンの開

発後にも長期的な有書事象の観察が必要です。新型コロナのワクチン接種は、世界でも昨年12月から始めたばかりです。将来にわたって絶対に安全だといふことは誰にも言えませんが、予期しない健康被害が起きるかもしれないと謙虚に考え、その対応を考えておかないといけません。だからといって、いま接種しないほうがいいというのではありません。新型コロナでは多数の重症者や死者が出ています。アナフィラキシーなどの危険が高い人を除けば接種する利益のほうがはるかに大きいと思います。